

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム センチュリー21		
所在地	宇部市山中126-1		
電話番号	0836-62-1021	事業所番号	3570200539
法人名	社会福祉法人 愛世会		

訪問調査日	平成 21 年 12 月 18 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人 非常勤 1 人 (常勤換算 6.5 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	~ 2 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	8,250 円		
	内訳	共益費(光熱水費を含む)日額 200円 寝具代月2,250円		

### (4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護1	3	要介護4	1	
	要介護2	3	要介護5	0	
	要介護3	2	要支援2	0	
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 阿知須共立病院 歯科 ユー歯科
-------------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

法人の固い信念のもと、全職員が食の大切さを認識され、三食とも手作りで献立、買い物、調理、後片付けの一連の作業で支えあう関係づくりをされ、家庭的で和やかな食事風景となっています。利用者のいきいきとした様子と職員の自然なふれあいにコミュニケーションのよさがうかがえます。法人の関連施設と十分な応援体制がとられ、看護師の朝夕2回の健康チェックの来訪など利用者の安心安全に繋げておられます。

### (特徴的な取組等)

介護計画は、担当者が月1回「カンファレンスチェックシート」に記入し、3ヶ月毎の評価時の共有や効率のよい見直しの作業をされています。ヒヤリはっとの検討結果から薬の確認の必要性を認識され「服薬支援チェックシート」を考案し、複数の確認が出来る体制作りをされています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部研修の検討について、研修の範囲を拡大し可能なかぎり受講ができるよう取り組まれています。

### (今回の自己評価の取組状況)

評価について理解しておられ、主任が記入し全員で検討されまとめた後、全員で意見交換をしておられます。

### (運営推進会議の取組状況)

定期的開催メンバーは、高齢福祉課職員、民生委員、利用者2名、家族で構成され、事業所の状況報告や外部評価の結果報告、避難訓練について意見交換をされています。

### (家族との連携状況)

毎月ホーム便りに担当職員のコメントを記入し、金銭出納の写しや領収書と共に送付しておられます。面会時に暮らしぶりなど状況を報告し、面会の少ない家族には、必要に応じて電話や手紙で報告されています。年1回、母の日に家族集会を開催し、生活ぶりを報告し要望を聞いておられます。また、年2回食事会に参加を呼びかけておられます。

### (地域との連携状況)

法人が一つの自治会であり、地域の文化祭や盆踊大会、運動会等に積極的に参加し、特養との合同の敬老会には民生委員や地域の人も招待されています。また、地元のボランティアと積極的に交流しておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域密着型の理念として「地域のボランティアを受け入れるなど慣れ親しんだ環境のもとで交流を深める」を掲げている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームに掲示し、毎朝唱和すると共にグループホーム会議等で共有し、実践に向け取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>法人が一自治会であり、地域の文化祭や盆踊り大会、運動会等に積極的に参加し、特養との合同の敬老会には民生委員や地域の人も招待している。また、地元のボランティアと積極的に交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解して、職員で話し合い主任が記入し管理者及び職員が確認している。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>定期的に行われ、メンバーは高齢福祉課職員、民生委員、利用者2名、家族で構成されており、事業所の現状、外部評価の報告、避難訓練についても意見交換をしている。市職員の意見で利用者をメンバーに加えているが、地域のメンバーが少ない。</p>	<p>・地域のメンバーの検討</p>
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>高齢福祉課と地域密着についての問い合わせや法的、事務的な相談などの機会をつくりサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行するホーム便りに担当者のコメントを記入して、金銭管理の写しや領収書と共に送付している。面会時に暮らしぶりなど状況を報告したり、面会の少ない家族には、必要に応じて電話や手紙等で報告している。年1回、母の日に開催する家族集会でも暮らしぶりなどを報告している。また、年2回食事会の参加を呼びかけている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議や家族会等から要望や意見を求めて運営に反映させている。「利用者からの苦情を処理する為に講ずる措置の概要」を作成しており、相談苦情の窓口、担当者、第三者委員、外部機関を明示し苦情処理手続きも明確に定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員7名、日中3人体制で、行事のある場合は増員について職員間で話し合ったり、利用者の状況の変化や要望の対応には、公休職員と話し合って勤務調整をしている。夜間は特養からの応援体制も取られている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	原則として異動はなく、離職対策として待遇改善、働きやすい職場、声かけ、コミュニケーション等に努めている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は初回、中級等段階的に受講し、復命、伝達して職員全員が共有している。内部研修は研修計画を立て全員受講に努めている。主任が働きながらのトレーニングを指導し、資格取得を目指す職員には資格手当を支給している。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流のあるホームと見学や意見交換をしているが、同業者との幅広い交流は少ない。	・同業者との交流の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に事業所見学を勧め、利用者や職員とお茶を飲んだり、談話をしたり、施設からの入所は面接に出向くなどコミュニケーションをとるようにして、事業所の雰囲気馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員一人ひとりが、目上の人を敬うという気持ちで接することに心がけており、諺や料理の味付け、野菜づくり、生活の知恵など利用者から学ぶことが多く、支え合う関係が生まれている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>家族が記入するアセスメントなどの生活歴や日常生活での利用者同士の会話、つぶやき、様子などからセンター方式を用いて、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。必要な情報はケース記録に記入しグループ会議で共有検討し、介護計画に反映している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族や本人の要望を聞き、担当者を中心にケアマネジャー、看護師などと話し合っ、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヵ月後、1年後の見直しを原則としているが、担当者が毎月モニタリングチェックをし、カンファレンスシートに記入した情報を基に、月1回のカンファレンスで3人づつ評価を実施し、変化があれば新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診支援、早期退院支援、看護師の朝夕2回の健康チェック、美容院の移送サービスなど柔軟に支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用時に希望を聞き、かかりつけ医は法人の医師で事業所の協力医療機関と関係を築き、適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時方針を示し、重度化した場合は家族、医師と話し合い、併設施設への転居の説明している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	「心地よい言葉遣いに気をつける」を目指し、気になる言葉づかいには職員同士で話し合っている。記録類は保管庫で管理し個人情報の取り扱いに配慮している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝、食事等夫々のペースで、また1日をどう過ごしたいかも希望に添い個人にあった趣味など、スケジュールの調整をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	法人の固い信念のもと、全職員が食の大切さを認識し、3度の食事は全て事業所で手づくりをし、献立、買い物や、調理、配膳、後片付けなど、自発的に行う利用者と一緒に、会話が弾む楽しい家庭的で和やかな食事風景をつくり出し、食事を楽しむ支援をしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回14時～17時まででゆっくりと楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる場合には声かけを工夫し、利用者の状況に合わせて清拭、半身浴、シャワーにも対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	掃除や食事の準備、後片付け、ごみだし等の役割や編み物、縫い物、生け花、貼り絵など趣味の活かせる場面づくり、デイサービスのオープンカフェに数名参加するなど楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	週3回の買い物や四季の花見、外食、中庭での体操、日光浴など出来るだけ戸外に出かけるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	毎月の法人の「身体拘束廃止委員会」に参加し、会議で全職員共有し拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外出傾向のリスクを把握し、見守りをしながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人の「事故防止委員会」で話し合い、マニュアルも作成し事故防止に取り組んでいる。事故記録やヒヤリはっと記録を整備し、再発防止のため全員で検討している。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎年1回消防署の指導を受け救急法の研修を実施している。法人で応急手当の研修にも取り組んでいるが定期的には行っていない。	・応急手当や初期対応の訓練の定期的実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人で毎月通報避難訓練を利用者と共に実施している。夜間想定も行っている。また、法人として災害備蓄体制を備えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の目的、副作用は個人記録にファイリングし職員は理解している。誤薬防止の為にチェックシートを作成し、3人の確認が出来る体制を整えている。変更のあった場合医師や看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後利用者の力量に応じ歯磨きの支援をしている。義歯は夜間洗浄剤につけ、ハブラシは週1回消毒している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を記入し、カロリーや栄養バランスについては特養の栄養士に助言を貰っている。一人ひとりの状況によりお粥、刻み等にも対応している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人の「感染予防委員会」で予防や対応の取り決めをし、マニュアルや配布資料で研修している。トイレや床、ドアノブ、手すりは週2回消毒し手洗い、うがいを励行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は明るく、中庭には植物が植えられ緑が安らぎを感じさせる。壁には写真や季節を表す共同作品が飾られ、和やかな時が流れている。居間から全部の居室が見渡せ家庭的雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人家族と話し合いながら馴染みの家具や趣味の飾り物、自分の作品などを置き、その人らしい居室を作っている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム センチュリー21
所在地	宇部市大字山中126-1
電話番号	0836 (62)1021
開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 (11月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム センチュリー21			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 名	女性 9 名	
	要介護1	3名	要介護4	1名
	要介護2	3名	要介護5	
	要介護3	2名	要支援2	
年齢構成	平均 83 歳	最低 73 歳	最高 95 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	主任が記入し、管理者 職員が確認した
評価確定日	平成 21 年 11 月 19 日

## 【サービスの特徴】

1. 自然環境に恵まれた安らぎのある住環境で行き届いた専門的ケアを提供する。
2. 心身機能が低下した場合に併設の特養ホームに受け入れが可能である。
3. 各種、レクリエーションや季節の行事を実施している
4. 1日3食の食事作りをしている
5. 思い出を個人アルバムに残している

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	民家から離れている為、地域のボランティアとの交流を深めていくことから考えて「地域のボランティアを受け入れるなど慣れ親しんだ環境のもとで交流を深めたい」と考えた	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームに掲示し、毎朝唱和している	
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	グループホーム会議や運営推進会議の時など、話の中に理念を組み込み明確にしている	
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	現場の意見に耳を傾け、良いケアに繋げていけるよう取り組んでいる	
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	特に取り組んでいない	<input type="radio"/> 毎月発行しているグループホーム便りに基本理念だけではなく、地域に向けた理念も明記して行きたい
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	ホームのまわりには、民家がなく、隣近所との交流は難しい為デイサービス利用者や地元のボランティアとの交流を図るよう努めている	
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の祭事等(文化祭 運動会)には、積極的に参加し、地元の人々と交流できるよう努めている	
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	特に取り組んでいない	<input type="radio"/> 母体施設を中心に参加できることがあれば参加し、実行して行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の意義は理解している。 改善があれば話し合い前向きに取り組んでいる	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進委員の意見は聞くようにし、サービスに活かすようにしている	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	相談事などがあれば、すぐに連絡するように心がけている	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	母体施設の生活相談員に相談することとしているが、制度を活用したことはない	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修委員により、12月にDVDを使った研修を予定している為参加するようにしている	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書などをもとに説明し、特に大事なところは、わかりやすく説明している	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の発言や行動から気持ちや思いをくみとり、職員間で情報を共有し、話し合い少しでも運営に反映できるよう努めている	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のグループ便りには、「担当者のコメント」欄を設け日頃の暮らしぶりなど記入している。又 預かり金帳簿のコピーとその領収書も請求書と一緒に送付している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	個人情報の開示は要求があれば応じていく考えです 又、評価結果などは玄関付近の戸棚にファイルして置いているのでいつでも見ることができます		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	意見箱の設置、苦情の窓口等についてのお知らせを玄関に掲示している。又、「利用者からの苦情を処理する為に講ずる措置の概要」のとりきめがある		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム会議などで意見を聞き反映させている		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や外出の時には職員を増やすよう勤務を組んでいる 又、夜間の急変時には併設の特養からの応援態勢が整っている		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動や離職など行われていない		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修委員により、毎月の職員会議終了後に行われ参加している		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	経験豊富な50代、60代の女性職員が多く30代は男性職員一人	○	法人の上司に若い女性職員の移動を嘆願している
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会には、まだ加入していないが支部は違うが交流のあるグループホームの招きで会合に参加させて頂いた		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とは、行事や面会 又は入院や受診の時などに、より多く会話することに努め、本人を支えていく関係が築けるように努めている		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会の時には、お茶などを飲んでもらいながら自室でゆっくり過ごせていただけるよう支援している 又、家族との外出の場合気をつけて欲しい点などを伝えている		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ドライブを兼ねて全員で出かけるように努めている		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立する入居者には、人間関係がうまく保てる入居者に多く関わられるように、食事の席を変更したり職員が間に入ったりして支え合えるよう関係作りに努めている		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	併設施設に転居した入居者や家族に出会った時には、声をかけたりあいさつしたりしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	契約時ご家族に、センター方式のアセスメント用紙への記入をお願いしている。又、本人の様子、会話などからでも検討している		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族によるセンター方式のアセスメント用紙への記入や会話により情報把握に努めているが本人からも情報を引き出せるような会話に努めている		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録の際、職員は何を思い、何を感じたかを記入するようにし、把握強化に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者の意見を中心に検討し、可能な限り本人とも話し合っている	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	常日頃より、入居者の現状について意見交換し検討している	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	主な情報などは、日誌に記入し確認したら、各職員押印している	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	主な行事(敬老祝賀会、夏祭り、クリスマス会)などは、併設の特養と合同で行っている。又、デイサービスの行事にも参加している	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアを受け入れホーム内の清掃やコミュニケーションの支援をしてもらっている	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	「ふれあい体験」で地域の小中学生を受け入れている	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスを利用する支援は行っていない	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	職員で考えた「GHの職員としてめざす職員像」を掲げている中に「心地よい言葉づかいに気をつける」を唱和している。そして気になる言葉使いには職員同士話合っている。又 個人情報は保管庫に収め目につきにくくしている	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	本人が理解しやすい短い言葉や単語を使い話しかけている。	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	本人の好きな家事、できる家事を見極め職員と一緒にいたり又は、見守ったりするなどして支援している	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	入居者との会話の中で、得た情報を職員間で共有し、支援に繋げていけるよう努めている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	朝の整容は自室の洗面所にて行えるように支援している。又、毎月散髪ボランティアを受け入れたり、2ヶ月に1回移動美容室を利用しパーマなどをかけている	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	日頃の会話の中で好きなもの、食べたいものなどを聞き出し献立に活かしている。又、食事準備や後片付けなど、自発的に行う入居者もおられる為見守りや一緒にするなどして支援している	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	晩酌を楽しみにされている入居者には、量や置き場所など話し合い自由に飲んでもらっている	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄のパターンの把握に努めたりシグナルや発言を見落とさないようにし、本人にあった誘導も統一して行っている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		縫い物や編み物など続けていけるように課題を提供したり、生け花の購入に付き添ったりしている。そして貼り絵など入居者と一緒に毎月作り上げている
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		お祭りや買い物時、おこづかいとして本人に渡している
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		外出は、予定を決めて行っているが、天気の良い日には園の中庭に出て体操したり日光欲したりしている
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		個別の外出は、計画したり、食材の買い物に行く時を利用したりして支援している
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		本人や家族の希望があれば支援していきたい
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		面会時間の制限は設けてなく、いつでも来訪された時には飲み物などをお持ちしてゆっくり過ごせるようにしている
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		宿泊を希望される家族はおられないが、いつでも対応できるようにしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は植木や椅子などを設置してなごめる雰囲気工夫している	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	誰も観ていないテレビのつけっぱなしを防ぐ為ラジオをつけている。又、クリスマス前にはイルミネーションなどで明かりをとめている。居間には職員が持ってきた季節の花などを飾っている	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファなどを数箇所に設置している。そしてぬいぐるみなどを置き癒しにつながり入居者同士の会話の場にもなっている	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族も自発的に使い慣れた家具や椅子、ラジオなど持って来られ、本人と話し合い居心地よく過ごせて頂けるよう工夫している	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調整は入居者の意見を聞き、温度湿度計を見ながらこまめに行なっている。トイレは、消臭スプレーや芳香剤を使用している	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	本人の状態に応じ車椅子や歩行器を利用しているが、身体に負担がかからない程度で歩行や立位のリハビリを生活の中で行い自立した生活に繋がるよう支援している	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱に繋がらないよう見守りや一緒に行なうなどして、本人の意思を大事にした支援に心がけている	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	居室の窓の外や中庭、裏の洗濯干し場などにプランターを置き水やりや落ち葉の掃除など活動できるようにしている	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない